

国立保健医療科学院の今井博久疫学部長らの研究グループは、高齢者が避けたほうがよい医薬品をリスト化して公表しました。新聞にも掲載されましたので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。今回は、この「**高齢者は避けてほしい薬のリスト**」について紹介したいと思います。

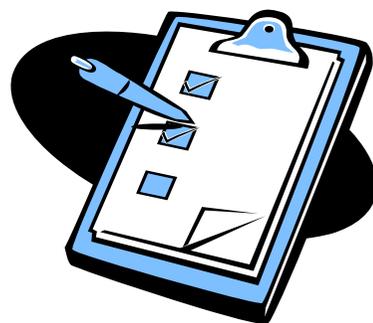
●高齢者

65 歳以上の高齢者は、一般に複数の合併症をもち多種類の薬剤を服用しているため、薬剤関連の有害事象（副作用）を起こしやすい。また、高齢者は肝臓や腎臓の機能が低下していることが多く、通常の成人用量では過剰となり副作用の影響を受けやすいと言われています。



●背景

アメリカでは高齢者の薬剤処方基準「Beers Criteria」というものがあります。Beers Criteria とは、アメリカの Dr. Mark Beers（マーク・ビアーズ博士）が中心になって作り上げた、「高齢者に不適切な医薬品リスト」のことです。今回のリストは日本版に相当します。日本の医療制度や医療事情に合わせて作られた、国内で初めてのものです。



●基準

リスト選定の基準

(1) 65 歳以上の高齢者において「疾患・病態によらず一般に使用を避けることが望ましい」薬剤

高齢者を不必要なリスクにさらし、それよりも安全性が高い代替薬剤がある、あるいは効果がない等の理由から。

睡眠薬、解熱・鎮痛薬、降圧薬、抗血栓薬など約 70 種類

(2) 65 歳以上の高齢者において「特定の病状がある場合に使用を避けることが望ましい」薬剤

糖尿病、肥満、認知症、胃・十二指腸潰瘍など 25 の病気別に

表. 高齢者において疾患・病態によらず一般に使用を避けることが望ましい薬剤の一例（リストから抜粋）

薬剤（代表的な商品名）	問題点
催眠・鎮静薬、抗不安薬 ○フルラゼパム（ベノジール、ダルメート） ○フルニトラゼパム（サイレース、ロヒプノール） ○ジアゼパム（セルシン、ホリゾン）等	ふらつきによる転倒および骨折の危険が高くなる
解熱・鎮痛・消炎剤 ○ペンタゾシン（ソセゴン、ペンタジン）	幻覚などの中枢神経系副作用
抗うつ薬 ○アミトリプチリン（トリプタノール）	排尿障害および鎮静作用が強い
抗不整脈薬 ○ジソピラミド（リスモダン、ノルペース）	心不全、排尿障害
降圧薬 ○メチルドパ（アルドメット）	徐脈、うつ病
抗血栓薬 ○チクロピジン（パナルジン）	肝障害
アレルギー治療薬 ○塩酸ジフェンヒドラミン（ベナ、レスタミン）	排尿障害

●注意点

- ・この基準は法的な拘束力はなく、掲載された薬剤は使用禁止というものでもない。
- ・この基準は、潜在的に生じるかもしれない薬剤による高齢者の不利益を未然に防ぐための基準です。



- ・論理的で妥当性をもつ基準を使用すれば、高齢者に効率的にかつ安全に薬剤を処方することができ、これまで見過ごされてきた健康被害を減らすことが期待されます。

<参考>

- ・朝日新聞 2008 年 4 月 1 日 28 面
- ・国立保健医療科学院 <http://www.niph.go.jp> 疫学部